令和４年度

地域防災の活動報告

令和５年３月

NPO法人
ひょうご地域防災サポート隊

ごあいさつ

まもなく新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同等の「５類」に引き下げられる予定であり、引き続き感染拡大には留意しなければなりませんが、これからは行動制限のない社会経済活動が行われる新たなWithコロナの社会に移行していくことになります。この３年間は満足に「ひょうご地域防災サポート隊」の活動ができませんでしたが、今後は徐々に活動の場も増えてくるであろうと考えています。

皆さまにはご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。そして、私たちの防災・減災活動に、ご支援、ご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。この度、令和４年度防災活動報告をまとめましたのでお届けいたします。

私たち「ひょうご地域防災サポート隊」は、兵庫県を退職した技術職員が集い、平成１８年１月にＮＰＯ法人の認証を受けました。

私たちが県職員時代に遭遇した「阪神・淡路大震災」が活動の原点になっています。各自の持場で、「安全で快適なまちづくり、地域づくり」に取り組んでいましたが、技術の限界、想定をはるかに超える自然の力を思い知らされました。また、「公助」の限界も目の当たりにする一方、「自助」「共助」が命を守り、復興に大きな役割を果たすことを学びました。

このような経験を原点にして「守れ、いのちを！」を合言葉に、各地域に出向き、兵庫県が作成したＣＧハザードマップを活用するなど、それぞれの地域が内包する災害リスクを確認し、地域の方々と共に防災力向上や減災対策について考えてきました。

本年度は、井上前理事長、窪田前副理事長をはじめ、これまで当法人を牽引してきた役員が退任しました。それに伴い、若手を含めた新たな体制に移行し、さらに３名を新会員として迎え、昨年度末に２名退会したため、２６名の会員により活動しました。

今年度も、全国的には大きな災害が発生しました。

令和４年３月１６日に福島県沖でＭ７．４の地震が発生し、宮城県内で震度６を観測しました。宮城県、福島県には津波注意報が発表され３０㎝程度の津波が観測されました。この地震では、死者３名、負傷者２４１名の人的被害や、全壊６４棟等、１０，４１４の住宅被害が発生しました。

７月１４日から東北、九州を中心に大雨となり、宮城県名蓋川等の２８河川が氾濫し、全国で１，７１９もの住宅被害が発生しました。

８月３日以降には東北、北陸をはじめ広い範囲に断続的に猛烈な雨が降り、山形県最上川等、４つの一級河川を含む１３２もの河川で氾濫が発生しました。全国で１２名の死傷者や７，０４２の住宅被害が発生しました。

兵庫県内では大きな災害は発生しませんでしたが、このような災害の頻発を目にすると、いつ兵庫県で起こってもおかしくありません。これまでの災害経験を忘れることなく、事前の備えを怠らないようにしなければなりません。

また、令和５年１月２４日から１０年に１度クラスの寒波が日本列島を覆いつくし、降雪や凍結で道路・鉄道等の交通機関がマヒし、多くの方が長時間に渡り渋滞に巻き込まれたり列車内に閉じ込められる事象が発生しました。気象庁から事前に注意喚起がなされていましたが、ノーマルタイヤでの走行、鉄道会社の判断ミス等もあり、大規模な混乱に陥りました。

そして海外では、２月６日にトルコ南部のシリア国境付近を震源とする大地震が発生しました。多くの建物崩壊等で５万人以上の死者が報告されるなど、両国で甚大な被害が出ました。建築物に十分な強度が確保できていなかったことが被害拡大の直接の原因ですが、一方で安全基準を満たさなくても一定の条件下で違法とされず建築できたことが問題視されています。科学的知見に基づく耐震対策の徹底の重要性を改めて認識させられる災害でした。

令和４年度の活動状況は以下の通りです。

相生市、神戸市北区、加古川市の自治会等で地域の防災リスクとその対応について講演を行いました。洲本土木事務所での水防技術研修会や加東市、南あわじ市立湊小学校での避難所ＨＵＧ訓練で講師を務めたほか、同じく湊小学校児童と南海トラフ巨大地震が発生した時の自分の命を守る行動について学習しました。また、兵庫県阪神南県民センターの依頼を受けて、防災フェスティバルと「尼ロック防災展示室」特別公開の支援を３年ぶりに計画通り全日実施しました。

「防災 避難行動の手引き」を発刊しました。この手引きは、各人の自宅等で想定される自然災害の危険性を認識したうえで、災害発生時には自分の命を守るためどのように行動するのかを、洪水､地震等災害毎に取りまとめたものです。

さらに、加西市の消防団のあり方検討委員会に委員として参画しました。

新型コロナウイルスが１日も早く終息することを願いつつ、激化する降雨災害や発生が懸念される南海トラフ地震等を念頭に、最新の防災・減災対策の動向にも関心を払いながら、研鑽を積み、地域の防災力向上に引き続き貢献していきたいと考えています。

今後とも、当法人の活動につきまして、各位のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和５年３月吉日

ひょうご地域防災サポート隊

理事長　　糟谷昌俊

目　次

Ⅰ．防災啓発活動（出前講座）　1

Ⅱ．防災啓発活動（防災訓練等支援）　5

Ⅲ．防災啓発活動（防災マップづくり等支援）　9

Ⅳ．防災啓発活動（防災展示室特別公開支援）１１

Ⅴ．防災啓発活動（防災図書の発刊）　１５

Ⅵ．その他の活動　１６

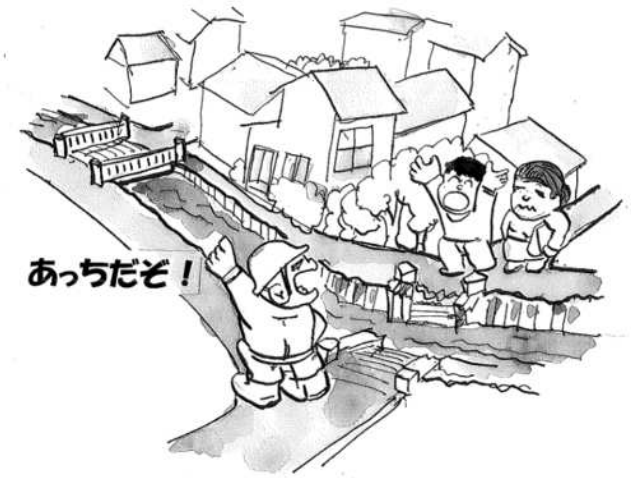
※「ひょうご地域防災サポート隊」HP 令和４年度活動報告

Ⅰ．防災啓発活動（出前講座）

私たちは、防災知識の普及啓発活動として、自治体等の依頼を受け、地域住民や自治体職員等を対象に３地区で、出前講座を実施しました。

実施地区一覧表

NO	開催日	活動内容	開催場所	担当者
1	R4.10.20	地区防災計画策定に向けた勉強会	相生市立総合福祉会館	髙谷　和彦 廣田　　誠
2	R4.11.06	神戸市北区上津台１丁目自治会自主防災学習会	イオンモール神戸北「イオンホール」	寺田　良幸 林　　健児
3	R4.12.13	東神吉シニアクラブ防災研修会	加古川市立東神吉会館	阿山　耕三



１・地区防災計画策定に向けた勉強会

１．依　頼　者　：　西播磨県民局総務企画室
総務防災課

２．開　催　日　：　令和４年１０月２０日（木）

３．開 催 場 所　：　相生市立総合福祉会館

４．講演等の相手：

相生市内の自治会長
西播磨県民局管内の市町防災職員　合計 30 名

５．講　演　者　：　髙谷和彦
（補助）廣田誠

６．講 演 内 容 ：
地区防災計画策定に向けての勉強会

県民局　　：地区防災計画の概要説明、フェニックス共済の説明
サポート隊：以下の内容について講演
第一部　ハザードマップの説明、避難に関する知識等（１時間）
第二部　自分のスマホでハザードマップを見る練習（30 分）

第一部

第二部

２・神戸市北区上津台１丁目自治会防災学習会

１．依　頼　者　：　上津台１丁目自治会

２．開　催　日　：　令和４年１１月６日（日）

３．開 催 場 所　：　イオンモール神戸北
「イオンホール」

４．講演等の相手：

上津台１丁目住民等　５４名

５．講　演　者　：　寺田良幸　（補助）林健児

６．講 演 内 容 ：

講座１　「上津台１丁目の災害リスク」

⑴　北神戸地区の開発（現在：北神テクノパーク）
⑵　上津台１丁目の地質
⑶　上津台１丁目の災害リスク
⑷　防災マップ作り

講座２　「私が体験した阪神・淡路大震災」

⑴　地震発生・・5:46　六甲・淡路島断層帯が動いた
⑵　避難行動・・より安全な処を選び 避難を続けた
⑶　避難所・・・夕方 神戸改革派神学校に収容された
⑷　最後に・・・今すぐ、準備できることが有ります

３・東神吉シニアクラブ防災研修会

１．依　頼　者　：　加古川市東神吉町シニアクラブ連合会

２．開　催　日　：　令和４年１２月１３日（火）

３．開 催 場 所　：　加古川市立東神吉会館

４．講演等の相手：

加古川市東神吉町シニアクラブ連合会会員　　５０名

５．講　演　者　：　阿山耕三

６．講 演 内 容　：

演題　「東神吉町で想定される自然災害を学ぶ」

１．大雨洪水災害について

①　近年の豪雨災害の特徴

②　地球環境・地球温暖化の傾向

③　「１級河川 加古川」は安全か？

④　自分の命を守る行動

２．地震災害について

①　南海トラフ巨大地震

②　内陸直下地震　東播磨地域周辺の活断層

３．守れ、いのちを！

①　マイ避難カードの作成

②　自主防災組織の役割

Ⅱ．防災啓発活動（防災訓練等支援）

私たちは、地域の自治体等の要請にもとづき、水防活動の技術支援を１か所、避難所ＨＵＧ訓練を２地区で行いました。

※避難所ＨＵＧとは、避難所運営をみんなで考えるためのもの。Ｈ（hinanzyo 避難所）Ｕ（unei 運営）Ｇ（game ゲーム）、HUG（抱きしめる、避難者をやさしく受け入れる）

実施地区一覧表

NO	開催日	支援内容	支援場所	担当者
1	R4.08.04	洲本土木事務所水防工法技術研修会	(二)三原川　右岸河川敷（南あわじ市善光寺地内）	谷田　登志晴 廣田　誠
2	R4.09.04	加東市避難所体験（HUG）訓練	滝野総合公園体育館スカイピア	森脇　康仁 谷田　登志晴 相埜　利幸 市川　和幸 髙谷　和彦
3	R4.12.21	南あわじ市立湊小学校教職員防災研修（HUG 訓練）	湊小学校コンピュータ室	谷川　俊男 寺田　良幸

１・洲本土木事務所水防工法技術研修会

１．依　頼　者　：　淡路県民局洲本土木事務所

２．開　催　日　：　令和４年８月４日（木）

３．支 援 場 所　：　(二)三原川　右岸河川敷
（南あわじ市善光寺地内）

４．講演等の相手：
洲本土木事務所職員:11 名
洲本市職員:3 名
南あわじ市職員:6 名
洲本建設業協会員:7 名　　合計　２７名

５．講　演　者　：　谷田登志晴

（補助）廣田誠

６．講 演 内 容 ：
水防工法演習の技術指導
＊演習工法
1.土のう作成
2.土のう積工
3.木流し工
＊演習内容
参加者を２班編成(各班 14 名)に分かれ、講師の模範
演習後に実技演習を実施した。

２・加東市避難所体験（HUG）訓練

１．依　頼　者　：　加東市役所総務財政部防災課

２．開　催　日　：　令和４年９月４日（日）

３．開 催 場 所　：　滝野総合公園体育館スカイピア

４．講演等の相手：

加東市民（主に河高、上滝野地区の役員）
合計２０名

５．講　演　者　：　森脇康仁

（ファシリテーター）谷田 登志晴・相埜 利幸・市川 和幸・髙谷 和彦

６．講 演 内 容 ：

加東市民を対象としたHUG訓練

1）概要説明と準備
2）対象災害（山崎断層帯地震）等の訓練条件の確認
3）アイスブレイキング（自己紹介）
4）ウォーミングアップと運営方針
5）HUG訓練
6）意見交換
7）まとめと意見発表
8）講評

３・南あわじ市立湊小学校教職員防災研修（HUG 訓練）

１．依　頼　者　：　南あわじ市立湊小学校

２．開　催　日　：　令和４年１２月２１日（水）

３．開 催 場 所 ：　湊小学校コンピュータ室

４．講演等の相手：

湊小学校教職員（校長、教頭含む）
合計１０名

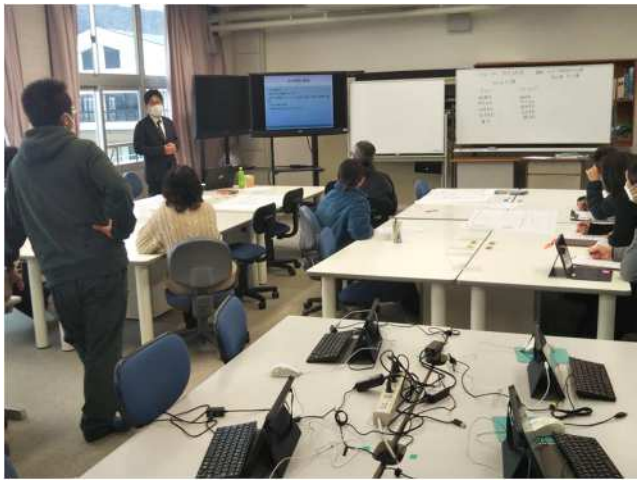
５．講　演　者　：　谷川俊男

（ファシリテーター）寺田良幸

６．講 演 内 容 ：

教職員防災研修ーHUG 研修ー

１）概要説明と準備
２）研修内容の確認（対象災害の確認含む）
３）ウォーミングアップと運営方針
４）ゲーム（本番）
５）まとめ
６）意見交換
７）コメント



Ⅲ．防災啓発活動（防災マップづくり等支援）

自主防災組織の活性化を図り、地域の防災組織の向上を図る取り組みの一つとして、地域の人たちによる手作りの「地域防災マップづくり」や「DIG 訓練」、「ワークショップ」等を自治体を対象に１地区で支援活動を行いました。

※　DIG 訓練とは、災害（Disaster）の D、想像力（Imagination）の I、ゲーム（Game）の G の頭文字を取って名付けられた、誰でも行うことができ、誰でも参加できる簡易な災害図上訓練です。

実施地区一覧表

NO	開催日	活動内容	開催場所	担当者
1	R5.01.17	南あわじ市立湊小学校 DIG 学習	湊小学校体育館	谷川　俊男 廣田　　誠 森脇　康仁 寺田　良幸 相埜　利幸

１・南あわじ市立湊小学校 DIG 学習

１．依　頼　者　：　南あわじ市立湊小学校

２．開　催　日　：　令和５年１月 17 日（火）

３．開 催 場 所 ：　湊小学校体育館

４．講演等の相手：

湊小学校 3～6 年生
校長　教諭
　合計５２名（うち生徒 46 名）

５．講　演　者　：　谷川俊男

（ファシリテーター）廣田誠・森脇康仁・寺田良幸・相埜利幸

６．講 演 内 容 ：

南海トラフ地震の DIG 訓練
１）全体会あいさつ
２）講話“DIG 学習について”～自分の命は自分で守る～
３）DIG 学習　想定災害“南海トラフ巨大地震”２月平日 7:30
４）全体交流（各班の発表）
５）講評
６）反省会―校長室

Ⅳ．防災啓発活動（尼ロック防災展示室特別公開支援）

兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所からの要請により、尼崎閘門（通称“尼ロック”）に設置されている防災展示室が、７月、８月の土曜日、日曜日、祝日に特別公開されたのに際し、その支援業務を行い、地域の子供たちなどの住民への高潮・津波などの災害に対する啓発への支援を行いました。

また、特別公開に先立ち６月５日に尼ロックにおいて行われた防災フェスティバルの支援を行いました。

１．依　頼　者　：　阪神南県民センター
尼崎港管理事務所

２．開 催 日 時　：　防災フェスティバル：６月５日（日）
特別公開：７月２日～８月２８日
（期間中の土日祝日）

３．開 催 場 所　：　尼ロック防災展示室

４．参　加　者　：

防災フェスティバル：８１名
（大人63、中学生１、小学生９、乳幼児８）

特別公開　　：１５２名
（大人１２１、中学生１３、小学生１６、乳幼児２）

５．業務従事者：　総括：今井猛

相埜利幸・市川和幸・井上俊廣・鵜崎尚夫・糟谷昌俊・釜谷正博・窪田彰・榊原敏夫・阪出裕昭・髙﨑伸彦・髙谷和彦・谷川俊男・谷田登志晴・常友 永市・寺田良幸・中村誠・林健児・廣田誠・藤田宜久・村上和幸・森脇康仁

６．活 動 内 容　：

①　防災フェスティバル支援

尼ロック防災フェスティバル開催中の防災展示室の案内業務

②　尼ロック防災展示室の特別公開支援

尼崎港管理事務所所管の尼崎閘門（通称尼ロック）に併設された防災展示室において、津波、高潮等の海岸防災意識高揚のための特別公開の案内業務

■　防災フェスティバルの様子

防災フェスティバル(6月5日)のチラシ

■　特別公開の様子

特別公開チラシ

■尼ロック新聞記事

神戸新聞NEXT

工港・海抜0メートル地帯の守護神「尼ロック」　防潮堤の内と外…1メートルの水位差を結ぶ

海側から見た第二閘門。半円形の水門が左右に開く構造　拡大

兵庫県尼崎市の南部臨海エリアには、地面が海水面よりも低い海抜0メートル地帯が広がっています。その広さは実に市域の3分の1。工都を浸水から守っているのは、周囲を取り囲むように建設された防潮堤と「尼ロック」。日本初のパナマ運河方式の閘門（こうもん）でした。

■防潮堤を船が通過できるように

兵庫県尼崎市の南部は、古くから工場地帯として栄え、地下水の汲み上げなどで地盤が沈下、戦中から戦後の一時期は水没の危機にありました。特に1934年の室戸台風、1950年のジェーン台風の時には大きな浸水被害を受けています。そこで1951年から、国と県、市がそれぞれ費用を負担して、尼崎市から一部西宮市を含む海岸地帯全体をカバーする形で、防潮堤を整備して水害対策を進めました。

ただ、工場地帯には海からの輸送が不可欠です。堤防で守るだけではなく、船の通路を確保しないといけません。そのために尼崎市の海岸に閘門が設けられました。閘門というのは、二つの水門で仕切られた水路です。水位差のある二つの水面を繋いで、船が行き来できるようにするために建設されます。水門を開け閉めすることで、防潮堤の内側と外側の水位を調節して陸地を守っているのです。

二つの水門の動きはこうです。基本的に、二つの水門は常時閉じています。海側から船が来ると、まず海側の水門を開けます。船が入ると、海側の水門を閉じます。そして陸側の水門を開けると、水路の中の水が陸側の水面に流れ込んで、水路の水位が下がります。船が水路を出て陸側の水面に入ると、また陸側の水門を閉じて終了です。

反対に陸側から船が近づくと、陸側の水門を開けます。船が水路に入ると、陸側の水門を閉じて、海側を開けます。すると海水が流れ込んで、水路の水位が上がります。船が水路から出ると、海側の水門を閉じて終了です。

こういう動きをする閘門をパナマ運河方式と言います。中米のパナマで、陸地を越えて太平洋と大西洋を行き来できるように建設されたパナマ運河には、こういう閘門が上り下りそれぞれ三カ所あって、エレベーターのように約26メートルの水位差をクリアしているのです。

尼崎にこの閘門ができたのは1954年。続いて第二閘門が1964年に完成しています。その後、第二閘門は1994年に、第一閘門も2002年にリニューアルされています。前後の水門の間の水路部分は幅17メートル、奥行き90メートルで、500総トンまでの船が通れます。

なお、地元ではこの閘門を「尼ロック」と呼んでいます。

■尼ロックを船で通過すると

閘門のコントロールは人の手で行われています。尼ロック東側の集中コントロールセンターに常駐していて、接近してくる船を監視して、水門を開けるのです。実際に船で近づくと、かなり素早く見つけて開けてくれます。たまーに、なかなか気付いてくれないときには汽笛を鳴らしてアピールします。

水門が開いて、信号が赤から青に変わったのを確認して、水路に入るとすぐに後方で水門がゆっくりと閉まり始めます。完全に閉まると、今度は前方の水門が開き始めます。もちろん満ち潮引き潮で変わるのですが、普段でだいたい1メートルほどの水位の差がありますから、開くと同時に水路の水が前方に流れ出して、水路内の水位が下がります。

完全に水門が開いて、出口側の信号が青になると、前進して閘門を抜けることができます。

抜けた先は蓬川と庄下川が流れ込む水面、つまり河口に当たる部分で、大規模な工場の立ち並ぶエリアです。

土砂や資材などを積み卸しして運搬する船が、この閘門を年間約7000回ほど通過するといいます。

尼ロックのコントロールセンターの1階は見学のできるPR施設になっていますが、通常は団体のみの予約制です。ただ、毎年夏場には期間限定で一般公開されるようです。また、施設そのものは西側の公園からいつでも見ることができます。狭い水路ぎりぎりに大きな船が行き交う様はなかなか迫力があります。

知名度はいま一つ、それでも尼崎市南部を水没から守り続ける尼ロック、ぜひ一度お立ち寄りください。

（まいどなニュース特約・小嶋 あきら）

Ⅴ．防災啓発活動（防災図書の発刊）

毎年のように日本各地で甚大な災害が起こり、被災や避難の状況を目にします。この間、防災情報はますます適時的確に発信され、人々の防災意識も高まってきました。一方で、情報過多で必要最小限の情報がわかりにくくなっている面も否めません。

そこで各人・各家庭がご自身の危険性を確認し、必要な情報を入手し、危険が迫る前に無事避難されることを願って、**「防災 避難行動の手引き」**を作成し、県関係部署及び県下全市町の防災部局に配布しました。

なお、本冊子は、（公財）兵庫県まちづくり技術センターの「防災エキスパート団体助成金」の支援をいただき作成させていただきました。

※本冊子電子版の HP への掲載（ダウンロード可能）や、チラシにより普及啓発を図っています。

内　　容	配布先	作成部数
第Ⅰ章　はじめに 第Ⅱ章　洪水編 第Ⅲ章　土砂災害編 第Ⅳ章　高潮編 第Ⅴ章　地震編 第Ⅵ章　地震・津波編 第Ⅶ章　共通編	県の関係部署及び県下全市町災害担当部局など	３００部

「防災 避難行動の手引き」
電子版（PDF）への
QR コード

【防災 避難行動の手引き」チラシ】

Ⅵ．その他の活動

当法人のメンバーが兵庫県内の市委員会で委員として、防災の普及啓発活動を行いました。

実施場所等

NO	開催日	事業内容	開催場所	参加者
1	R4.05.11 09.30 11.10 R5.01.26	加西市消防団あり方検討委員会 第１回 第２回 第３回 報告書提出	加西市役所会議室	阿 山　　耕 三

１・加西市消防団あり方検討委員会

１．依　頼　者：　加西市危機管理課

２．開 催 日 時：　令和４年５月１１日～
令和４年１１月１０日
（第１回～第３回）

３．開 催 場 所：　加西市役所会議室

４．委　　員：　阿山耕三（副委員長）

５．主 な 議 題

第１回委員会　令和４年５月１１日（水）
・正副委員長選任
・消防団員の報酬及び手当の改正について
・団員対象のアンケート結果について

第２回委員会　令和４年９月３０日（金）
・消防団員の報酬及び手当の改正について
・団員対象のアンケート結果を受けた対応について

第３回委員会　令和４年１１月１０日（木）
・消防団員の報酬及び手当の改正について
・今後の消防団の取組みについて

報告書提出　　令和５年１月２６日（木）
（報告書の概要）
・消防団員の報酬費改定について
　加西市消防団員がより意欲を持って活動するよう、団員報酬費（年額）及び出動手当（日額）について、国交付税に市単独費を上乗せした加西市独自案をまとめた。
・消防団のあり方について
団員のアンケート結果を踏まえ、団員の負担軽減に向けた訓練計画の見直し及び自然災害を念頭に置いた活動計画を提案した。

私たちの

地域防災活動への

ご支援ご協力

ありがとうございました

今後ともよろしく

お願いします

特定非営利活動法人

ひょうご地域防災サポート隊

（平成１８年１月５日設立）

私たちは、NPO 法人「ひょうご地域防災サポート隊」を設立し、地域の人々に対して、安全安心のまちづくりの推進のため、その地域に合った防災・減災対策等についての様々なサポート活動を行います。

令和５年３月

理事長	糟谷　昌俊
副理事長	廣田　　誠
理　事	相埜　利幸
同	今井　　猛
同	榊原　敏夫
同	阪出　裕昭
同	髙谷　和彦
同	谷川　俊男
同	谷田登志晴
同	林　　健児
監　事	市川　和幸
同	森脇　康仁
会　員	阿山　耕三
同	井上　俊廣
同	岩崎日出夫
同	鵜崎　尚夫
同	釜谷　正博
同	窪田　　彰
同	白井　伸幸
同	髙﨑　伸彦
同	常友　永市
同	寺田　良幸
同	中村　　誠
同	橋丘　　真
同	藤田　宜久
同	村上　和幸

ホームページ

https://support-tai.org/

（地域防災サポート隊で検索して下さい。）

連絡先

〒671-1511

兵庫県揖保郡太子町太田 463 番地 1

（廣田方）

Tel/Fax　0792（76）3907

E-mail　info@support-tai.org